

第19回市民ふれあいトーク―地域力を活かすまちづくり―

日時 平成22年10月8日 18:30~20:00

場所 倉敷西公民館

要約版

《市長》

今日は雨の中にもかかわらず、多くのみなさんにお集まりいただきまして心から感謝を申し上げます。

テーマは「地域力を活かすまちづくり」ということで、地域力といいますのは、小さくは皆様の町内や地域でもっとこうしたらいいのにと、大きくは倉敷市全体がもっとこういう所をどんどんPRしていけばいいんじゃないかということ、地域のみなさまの力、活力、ご活動を活かして素晴らしい倉敷市のまちづくりをしたいと、いうテーマのものでございます。みなさまが日頃取り組んで下さっていることのお話などをお聞きたいと思って今日参りました。最初私の方から少し今の倉敷市の現状、特にこの倉敷の西公民館を取り巻く地区、倉敷駅周辺の大きな変化の状況などご関係のある所をまず少しお話をさせていただきたいと思います。

今倉敷市は大きく市の方針として三つ、方向性を大きく掲げて頑張っております。まず一つ目は子育てにしっかり力を入れていまいしょうということです。「子育てするなら倉敷で」と言われるまちづくりを一生懸命目指しておりますのが一つ目。

二つ目が「安心して暮せるまちづくり」。これは福祉の面とか今大変課題になっております地球環境の問題で、身近には、倉敷市は何とか無料で頑張っておりますけれど、ゴミ袋のこと、ゴミの減量の問題のことなど。

三つ目は「個性と魅力を伸ばすまちづくり」。これを大きく三つを方向性として頑張っている所です。これまでの進展状況などを申し上げたいんですが、まず「子育てするなら倉敷で」と言われるまちについてでございます。全国的にも大変、少子健康長寿社会ということで人口が減ったり、子どもさんが減ったりということが通常になっているんですが、倉敷市では大変ありがたいことに、人口が増えてきております。去年から今年にかけて、ついに48万人を超えました。お隣の岡山市さんが70万人で政令指定都市になりました。倉敷市がだいたい50万人近くになっていくと思います。中国地方全体で言えば、広島市が120万人ですので広島市、岡山市は両方とも、岡山県とか広島県と同じ権限を持つ政令指定都市ですので、倉敷市は人口や、中国地方での一般の市で言いますと一番今の所大きな市になったというのが現状です。次は福山市さんがほぼ同じくらいの人口で、だいたい47万人くらいいらっしゃるわけです。福山市さんとは非常にもともと仲良くさせていただいております。一つにはJFEさんの工場もあるので、もともと交流もあるんですけど、結構都市の性格としてわりと似ているのではと思っております。その中で、岡山県内でも岡山市さんと共に岡山県内の行政をしっかり引っ張っていくお手本になるような市になっていかないといけないと思っています。

倉敷市がここ1、2年で全国に先駆けてしっかり取り組んで来ましたが、妊婦検診の公費負担14回というものでした。これは全国の大きな市の中でも殆ど一番最初くらいに取り組みをしまして、それまでは5回まで市の方で公費負担でさせていただいておりましたが、一挙に14回と言うとほぼ全体の回数ですが、子育てに力を入れるということで、そこまで市の方で公費負担にしました所、それまでに比べて子どもさんが生まれる数が増えました。というのはもちろん大変ありがたいことですが、もう一つ、われわれ消防

局の方で救急車を担当していますけども、駆け込みで初めて出産の時に病院に来ると非常に危ないわけですが、そういう方の数が非常に少なくなってきたという効果があります。倉敷市が昨年、一昨年からこの14回を導入いたしました所、その後国の方から随分視察に来られました。そして、昨年度から国の施策に取り入れられまして、全国で今現在、妊婦検診は14回までが主流になったのが、倉敷市から一つ全国に発信いたしました大きなことではなかったかと思います。

特に子育ての部分で力を入れておりますのが、ご家庭で働かれるお母さんたちが非常に増えていますので、家に帰っても居場所がない、遊ぶお友達が居ないこともありまして、学校や地域でやっていただいております児童クラブの充実を今一生懸命行っている所です。来年度くらいまでに、6年生まで児童クラブに希望される方が何とか入ってもらえる環境整備を進めていこうと思っているのが一つ。それから子どもさんの医療費について私も公約をしているんですが、小学校6年生までの公費負担についてやっていきたいと検討しています。今の所入院につきまして6年生までの公費負担で実施ができていますが、通院につきましてはまだ実現できておりません。あと任期1年半ほどありますので、この間に何とか実現をしていきたいという思いで今頑張っている所です。

大きく二つ目ですが、「安心して暮せるまち」でございます。医療、福祉の面、環境の面で一つ今取り組みを一生懸命していることで、他の市と倉敷市が違う、ゴミの有料化と無料化のことについてお話したいと思います。倉敷市は現在の所、毎週2回みなさまのご家庭にゴミの回収に伺っておりますが、ゴミ袋は無料で自分の好きな袋で出していただけるようになっております。岡山市、総社市など周りの大きな市についてはすでに有料になっております。実は私が市長に就任をさせていただく直前くらいだったと思いますが、倉敷市でゴミ袋を有料化する方向に検討しようという動きになっていました。私が市長に就任しまして、周りの市と倉敷市の状況をいろいろ調べまして、今の倉敷市であればもっとみなさんと一緒に協力してゴミの分別をどんどん進めたり、ペットボトルとかお家の資源ゴミ、ゴミ袋の中の一番大きい生ゴミをもっと減らしていけば何とか無料でいけないものかと思い、まず一昨年から取り組みましたが、ご家庭の生ゴミを堆肥化にさせていただくこと、コンポストと言いますけど、家の生ゴミを入れて堆肥にさせていただくもの、それから電気を使って乾燥しまして、ゴミの水分を飛ばして量を減らさせていただくものに対する補助制度を従来の約2倍から3倍に拡大いたしました。申請件数も非常に増えていただきまして、昨年10月からはゴミステーションでのゴミの回収で、ペットボトルの回収を始めさせていただきました。これまではハッピーマートさんとかマルナカさんとか拠点回収で行っていたんですけど、これも市の方の収集車で周って回収させていただこうと。これを進めていただいたら何とか倉敷市のゴミは、この大きな人口の規模では非常に珍しいんですけど、何とか一昨年に比べまして、昨年、今年とまだ数パーセントですが減っております。私もゴミの量が上がってきたら有料の検討を真剣に始めないといけないかと思っていたんですが、大変ありがたいことにみなさんのご協力で減ってきております。毎年ゴミの量を公表したいと思っております。ご家庭で一番袋から出るゴミの中で多いのは生ゴミのご飯の食べ残しです。全体の約半分が生ゴミで、そのうちの約8割から9割、つまり全体の量の約40%ぐらいは水分です。それから全体のうちの2割が紙類になっております。包装紙とか新聞紙を一緒に入れてしまったり、雑誌とか牛乳パックとかも始めとして書類の紙などがまだ2割入っております。これをみなさまと一緒に減らして行ければ、何とか

この人口の規模の都市で有料にしなくてもゴミが減っているまちづくりができるのではないかなと思ってみなさんに一生懸命お願いしている所です。ゴミのことばかり力説しましたがけれども、ぜひとも頑張っていきたいと思っています。

この高梁川の流域に住むわれわれの最大の心配が、もしも高梁川が堤防が切れたら、もしくはどこからか水が溢れてきたらということが非常に心配でございます。もちろん今の所、その心配はありません。以前の明治時代の頃のような洪水はないわけですが、今国土交通省と一緒にしまして、高梁川の改修の目途がだんだん現実的になって来ています。上流には真備の地区を流れております小田川がありまして、そこから上の所も非常に増水をいたします。高梁川の改修を今進めてきている工事の前の段階の計画を作っている所ですが、今現実的な計画として作っている所です。

福祉の面で今一番力を入れていますのは、健康なわれわれの先輩がとにかくずっと健康でいていただきたいと思っていて、市の公民館の講座、市の保健師などがご家庭に伺ったり、ウォーキングや体操など、その施策を進めていきたいと思っています。一番これからの社会で心配なのが、健康で長生きをしていただけなかったらわれわれとしては非常に困るわけですので、歩くこと、公民館の講座、市民講座などに参加していただきたいという考えで今進めております。もちろん病気になった時の医療、福祉施設の充実もしっかり進めていきたいと思っておりますが、国の規制の部分などがありましてなかなか進まないのが難しいわけですが、これからも頑張っていきたいと思っております。

三つ目「個性と魅力を伸ばしていく」という点で、今一生懸命頑張っております。一つにはこの地区、倉敷駅周辺で一番大きな変化と言えば、今度倉敷駅のチボリ公園の跡地の所が形が大きく変わっていくのがみなさま大変関心を持って見て下さっているかと思います。一昨年の年末にチボリ公園が閉園をいたしまして、その後一番心配をしておりましたのが今の経済状況ですので、なかなか跡の開発が決まらないのではないだろうか心配をしておりました。クラブウさんの方から最初の方は経済状況が厳しいので心配だとお話をいただいていたんですが昨年、一昨年から何とか一年半ほどかけて開発が決まりました。すぐ近くにはイオンさんがあります。大きな施設、違う種類のものが今回は来ることになります。チボリ公園跡地の周辺について、ご関心が高いかと思しますので、少しご説明させていただきたいと思います。全体の店舗面積が約7万㎡弱くらいになります。全体のチボリ公園の跡地が12ヘクタール、つまり12万㎡くらいです。その中でクラブウさんが全体の土地をイトーヨーカ堂さんに貸されることになりました。倉敷市としましては、もちろん地主の方が使われるので、何を作られるかはあまり多くは言われないわけですが、倉敷市としては倉敷の北の駅前に相応しいようなもの、全国の方が倉敷の駅に来られた時にショッピングであればショッピングビルばかりが建っていて、なかなか憩いの場が無いとなるべくならないようにとお願いをして参りました。倉敷市からは緑地を確保したいと駅前部分に1ヘクタールの公園と、もちろん酒津から水が来ておりますけれども、真ん中に倉敷用水が流れております。その部分を中心とした緑の部分の部分が駅から多く見えるようにと思っております。本当はもっと売っていただきたいと思っていたんですが、クラブウさんから売却できるのは1ヘクタールまでですとお話をいただきまして、この部分が公園、緑道ということになりました。この中ですが、三井不動産のアウトレットが中国四国地方で初めて来ると伺っております。中がまだどのようなものになるかは発表されていませんが、概略としてこのようなものになりました。今倉敷市ではこの緑道の部分、公園の部分、

それから地域のみなさまから要望をいただきまして、周りの部分を市民のみなさまの憩いの場所になるようにできないか検討しております。この倉敷用水が片道300mで、用水の両側に緑道の歩道を作ると検討していきまして現在の所、チボリ公園の周りで歩ける場所があるのは、西側の部分と東側の部分にしかありません。道路の関係で北と南には歩く所が、特にこの北側の部分にはなかったのですが、今回事業主体の方といろいろ折衝をしまして、周りの部分に歩いていただける場所を設けることとなりました。しかしこれは民地でイトーヨーカ堂さんがクラブウさんから借りられている土地ですが、その中を歩いていただける場所、植栽の部分、緑の部分を確認していただけることになりました。この600メートルの往復と一周の部分約1.4キロぐらいですので合計でぐるっと行くと2キロほどのお散歩コースに今できないかと、地面の方にここから歩いたら500メートルですとか、ここから行ったら今1キロまで来ましたよとかいうものを検討しております。なかなか民間の開発の部分ですので、中の方というのは難しかったんですけど、外の周り、緑を配置していただいて、なるべく近隣の方に車の面など少しでもご迷惑をかけないように今警察と一緒に事業者の方にお話をしている所です。

この緑道公園、今用水の両側には歩く道はないんですが、そこにクラブウさんが工場の時代からずっと植えております大きなヒマラヤシーダーや大きな木が何本もございます。それをなるべく残しながら、その中をぬって歩いていただける緑道を今検討している所です。一本非常に大きな木がありまして、そこにデッキのようなものを設けて木に直接触っていただける所を配置をしていこうと思っております。これが今現状の絵では随分うっそうとしていますが、もう少し地面も歩きやすくなる予定ですが、非常に貴重な水ですので、倉敷用水を大切にしながらデッキの部分で木に触っていただいたり、高い10メートルくらいの木にも触っていただけるものを今検討をしている所です。これがずっと繋がるイメージで造っていきたいと思っております。全体の施設が来年の今の時期か、年末よりは前にできると伺っておりますので、その時期までに緑道、公園の部分も造っていきたいと思っております。この倉敷の駅の北には非常に人口が多く住んでいらっしゃるわけですが、駅の周辺に県外からも多くの方が今後来られるようになります。1日多いときには何万人かの方が来られることもあると思います。しかし、今大きな避難場所になるような所がないことも含めて、ぜひこの公園の部分を確認していきたいと思っております。これが駅前の新しくできる場所になります。

私どもがもう一つ懸念しておりますのは、交通渋滞の面です。この近くのイオンさんの方も今拡張をされていると伺っております。その面とこれが新しくできますので、くれぐれも事業者の方には駐車場、シャトルバスなどの面の配慮をお願いしたいと申し上げている所です。

倉敷駅の北と南の部分は、これまでは倉敷駅の南の部分に商店街等が多くあってお客様が来られていたわけですが、今非常に商店街、厳しい部分がございます。ですので、倉敷の駅の北に来られる新しいお客さんたちをぜひ駅の南の方にも誘致して、美観地区、商店街を始めとする地域に多くの方が来ていただけるように、これが倉敷地区として。中四国から多くの方がいらっしゃるのだから、児島、玉島など観光地の方にも行っていただける施策を一生懸命頑張っていきたいと思っております。このような倉敷市の個性と魅力を地域間競争の面でしっかり発信をしていくことが必要であると思っております。

それでは、何かご意見とか自分はこう思いますとか、公園の部分につきまして、今広報

紙の10月号でこの公園の部分のどういう形とか緑とか、活用の仕方、名前について募集をしております。11月15日まで募集をさせていただいておりますので、ぜひお考えがある方は応募お願いできればと思っておりますので、よろしくお願い致します。

《参加者Aさん》

今チボリ公園跡の話を出長の方から聞かせていただいて、私もインターネットとか新聞とかいろんな情報で、とりあえず15億円くらいかかると。その中、伊東市長の素晴らしい力で2億円ちょっとで倉敷市のその公園ができるという話を何人にも話をするんですけど信用してくれないんです。30億円くらいとか25億円くらいとか巷でいろんな噂なんです、多分みなさんどれくらいかかってこの公園ができるのかと思っているんじゃないかと思しますので、市長の明確なお答えをお願いします。

《市長》

値段でございますね。駅前の一等地ですので、もちろん土地鑑定を取りまして購入をするわけですが、クラボウさんの方も、私どもも非常に高い金額になるのではと思って非常に心配をしておりました。鑑定を取らせていただきましたら、公園の1ヘクタールの部分がだいたい11億円くらい、1ヘクタール11億円は高いと思います。ただ、私の予想ではもっと高いと思っていたんですが、今の景気状況などで、少し値段が下がっているということでした。

それから緑道と周りの整備等がございます。全体でこの1ヘクタール、緑道の整備に、約15億数千円くらいかかる積算になりました。15億円と言いますとどのくらいの金額かと言いますと、一年間に子どもさんの通院する分の医療費がだいたい10何億円くらいです。その分をここに全部使ってしまうような金額ですので、非常に大きな金額です。ですので、何とかもっと下げられないかと思ひまして、何種類もある国の補助を、国土交通省の補助とか総務省の補助とかいろいろ探してきまして組み合わせることによって15億数千円分の分が倉敷市が最終的に自腹で払わなければいけない金額が約2億数千円くらいになる方法を見つけて来ましたので、市議会に出して通らないとOKが出ませんので、このくらいの金額で何とか駅前の緑の部分ができるんだったらと提案させて頂きました所、OKとなりまして、今整備を進めている所です。何とか倉敷市の負担が少なく、ただ残りの13億円の部分は国の方から来ると言ひしても、もともとはわれわれの税金です。ただ国のいろんな制度がある中で他の市が使うんだったら倉敷市でその補助金を使いたいと思ひまして、探して来た次第です。だいたい来年の今時期よりもうちょっと後になると思ひますが、できるようになると思ひますので、ぜひ周りの2キロの部分を試してみただけるとありがたいと思ひております。

《参加者Bさん》

北側のデッキから見ると、まるで草原のようになって砂山の所が草がぼうぼうになっているのを見ると、一年前にチボリが潰れたのが目に浮かぶようで、観光客の人が北口から見た時に倉敷の玄関口としては誠に寂しいし、観光客に与える印象も良くないと思うんです。市長のご尽力でできるだけ一日でも早く工事に掛かかっていただいて、一ヶ月でも二ヶ月でも早くしていただくようお願いします。

渋滞もあると思うんですけど、ヨーカドーさんとイオンさんと絡んでいるから簡単にはできないと思うんですが、シャトルバスを出してヨーカドーの北口の所とイオンと美観地区と駅前の商店街も大事なので、市民と観光客の方が乗れるように便宜を図っていただくと。お金のことがあってもそれだけは検討していただきたいと思います。

最近芸科大、岡山理科大学の先生がノーベル賞をもらいましたね。地元は非常に沸いていて、先生が非常に活躍されてもうちょっと長く10年くらい居てもらえたら倉敷はもっと沸き上がると思いますけど、テレビでは2002年まで居られたということで残念ですけど。教育も非常に重要ですが、われわれ市民と観光客はせっかくできる公園が、チボリで一回失敗しているわけですので、市民にあまり相談もしないでチボリ公園ができて、止める時も市民に断りもなく市長さんも非常に苦しい立場だったと思うんですけど、非常に僕らも悲しかったんですけど、今回はそういうことのないように市民の意見、考えを汲んで、企業がやることではあるんですけど、若い人の意見も汲み上げて、今度の公園に活かせるようにぜひやっていただきたいと思います。お願いします。

《市長》

この工事ですけど、国の予算のいろいろな補助金をもらう都合がありまして、本当は一挙にやりたかったんですけど、二段階になることになってしまっております。真ん中の緑の300メートルの所はいろいろ探しましたら、今年度中のお金があるということで今年度にするようになっていきます。この部分については今殆どサバンナのような状態になっておりますけれども、真ん中は今年度にある程度のものはできます。ちょうど時期的に考えますと民間さんの工事が始まる頃になりますので、ここが来年春くらいにできて危ないということで、工事の間に使っていただくのは難しいかと思っております。デッキから見たらここだけできていることになるんですけど、ここだけ先にできているのになんでオープンしないのかと暫くなくなってしまわないかと思っております。渋滞を防ぐこと、シャトルバスについては市と事業者の方としっかり相談をして、渋滞がないことにはならずに迷惑をかけることになるんですが、少しでも減るように頑張っていきたいと思っております。

鈴木章さん、加計学園の方にご勤務されていまして、岡山に来られる時はぜひ倉敷の方にも来ていただいて何か市民のみなさんにお話をしていただける機会を設けていただけるよう申し入れをしたいと思っています。

《参加者Cさん》

市長さんからチボリの跡地の市民の公園についてお話をいただき、大変頼もしく思っております。ここで私なりの提案をさせていただきますけども、ぜひ川に沿ってホテルを放したいと思っております。前からこれが夢ですので。京都の御苑に行きますとトンボの池がありまして、大事にしておられます。秋には池から赤とんぼが飛ぶような、ベンチに座ると赤とんぼの曲が聴こえて年寄りも楽しめると本当に思います。そこに書いているように、緑地にぜひ桜を。これは記念に結婚された方を祝福して「自分たちの公園だ」という意識をこれから高めていかないとまたチボリの二の舞をして、市民が見向きもしなくなりますので。

駅北地区は非常に文化に疎外されているんです。図書館でも何でも施設は向こうにあり

まして、私たちは利用する時は踏み切りを渡って行かなければいけない。ぜひここに子どもたちの図書館を入れてください。市がしなくても大きな企業が来ていますので、一部の所を一部屋くらい開放して子どもたちに提供して下さい。

これから高齢者の問題があります。どうしても引っ込みがちになってわれわれもその歳になって、哀れ独りで死んでいくことになりますので、ぜひまちの中で高齢者が楽しめる一角を、何も広場を作れと言うんではないんです。一部屋に輪投げや風船遊びをする施設があるとか、みんなで楽しめるようにすると長生きがもっと長生きすると思いますので、提案します。

市長さんが最後に言われましたけど、こういう敷地には非常事態の災害についてどういう形か分かりませんが、地下に水の確保とテント、毛布を。本当に北地区はどこに逃げればいいのか。何かこの機会に企業ともいろいろ話し合って下さって、イトーヨーカ堂の方も市民と話し合って、長く続く施設を考えていただきたい思いです。

《参加者Dさん》

今度は絶対失敗できないんですけども、なぜ失敗するかと言うと、駅の北と南の連絡通路が整備されていないんです。ですから交通状態が非常に悪い。その辺りのお考えをお願いしたい。

もう一つは駅前通りが本当にゴーストタウンでしょう。名称が非常に悪い。「中央通り」という名称はどこかのまちにもあるんです。あれを「美術館通り」とかアイデアのある名前にしないと倉敷はどういうまちなのかがはっきりしないんです。市長さん冒頭でお話になりましたけど、子育てと福祉の問題は素晴らしい倉敷の宝なんです。私は常々思っているんですけど、倉敷は全国で住みよい都市ナンバーワンということを宣言し、すべてのマスコミで全国ランキングを付ける発信基地にする。倉敷が何番になるかは最初は分かりません。しかしそこに努力してなれば倉敷は素晴らしい地方都市になれる。倉敷の都市の性格は水島のコンビナートの都市なのか、観光都市なのか。私は数年前倉敷の長期計画にも携わったことがあるんですけど、観光客500万人か300万人だったか横ばいで絶対増える計画になっていないんです。もっと増やしましょうと言ったんですが、方策が考えられていない。その三点です。名称も今度募集されていますので、相当考えてつけないといけない。

東西の連絡ルート。前はシャトルバスはチボリと美観地区を走らせてたんですけど、いつの間にか消えてしまった。市内循環のバスを走らせていたけどいつの間にか消えてしまった。こんな中途半端な設計計画では駄目だと思いますので、今度は失敗できない駅北の開発をお願いしたいと思います。

《参加者Eさん》

総合計画とか環境基本計画等に関する総合的な審議会とか市民委員会に参加させていただきましたが、その話の中での今回の駅北等開発絡みの話をしたいと思います。

まず基本的にマスタープランが作られておりますが、倉敷駅の周辺事業等が古い計画がまだ残っていたり、もともと山陽本線の南北連携の面で見れば昔からの地下高架の計画が進んでおりまして、昔は5箇所必要だと。そのうち今現在すでに4箇所ができていて、寿町の踏み切りだけでできていない。現在では6箇所目が必要ではという意見があったりして、

大高街道の北詰、旧国道2号線、今県道429とがずっとそのまま山陽本線の地下をくぐって伯備線の西側に沿って酒津方面に行く道が必要ではないかと。現在中庄の団地の北側がほぼ完成している状態で、すでに5分の4とか6分の5は完成している。これを生かすのか殺すのかという形での鉄道高架化事業による南北連携が問題になっております。鉄道高架というのは市長の公約だと思いますが、これから南海・東南海等の大地震が来た時、鉄道高架事業等でダメージを受けて新幹線等のコンクリートが剥がれたりとかの修復ならまだしも、鉄道高架そのものの架台が壊れる状況が。近い将来、大地震が想定されている時にそのような計画をしていいのかどうか大いに疑問が出ております。

鉄道高架事業もそうですけど、もともとが国の財政で小渕内閣の頃から450兆円の国内投資があって、その結果が今の日本中で金がないと借金が増えた。昔は倉敷市も借金ゼロであったのが今1,600億円台の予算の中で相当の借金が増えた。伊東市長はそれを踏ん張っておられるのでそれなりに評価をしているんですけど。そのような状況下でそのような計画を長い目で見て本当に良いのかという点も問題になっております。

チボリの跡地の問題等、北の開発これも当然必要なんですけど、長い目で見てあちらこちらで聞くとイトーヨーカ堂、アウトレットモールを含めたチボリ跡地の利用計画は今の経済状況なりを踏まえたらずくて5年、普通でも持って7年と。そこから後の計画はどうなるか分からないのがだいたい経済人の常識だそうです。地元民は区画整理とか南北道の都市計画道路がもともと鉄道の高架事業に合わせて建設省から付帯工事要求が出てそれを呑む形で行われてきて地元の第二区画整備事業の住民たちは当時も今も大反対している。そのような住民協力の理解の得られない所でこの計画が進んでいくのかどうか。また進めるべきであるかどうかという問題もあります。今長い目で見て10年とか20年とか先を見据えた形でのまちづくりを考えると、商売とか企業主体の事業ではやっぱり駄目だ。というのは日本中、世界中動いてます。結局消費力がない状態で給料が下がったりいろんな形で消費力そのものが、地域力が無くなっている所ではやはり購買力として反映しないし、地域経済の循環率も上がって来ない。そうした時に出てきた案が、大きくまず倉敷中央病院等を主体とした旧市内、茶屋町と岡山県南等を初めとした総合的な福祉施設を中心としたまちづくり、チボリ跡地なんかも真備町、総社を始めとした広域医療福祉圏の中の中核施設という形で病院センターとか、場合によっては西日本一の図書館的な機能だとか、その中には福祉施設としての、文化の面で言えば大原美術館の北口分館ができるとか、もちろん災害拠点としてヘリコプターの施設ができるとかというような形での大きな整備の中で見ていく必要があるんじゃないかという意見が相当ありました。

《市長》

最初のCさんの桜のお話がありました。真ん中の所も緑道の部分には、桜は現状いろいろ調べているんですが、桜は難しいかと今の時点では思っているんですが、公園の部分に何を植えるか、もちろん地面の所は芝生に思っているんですけど、結婚記念のような桜を植えていただける所が置けるかについても、今の所全く白紙です。一生懸命桜を植えて酒津公園のような桜の名所になる面積かどうかは別としまして、桜を植えるのも一つの案だと思いますし、今度のアイデアの中でそういう案も出していただけたらと思っているのも一つです。こちらの方の木との関係もあるので、検討していく必要があると思っています。

災害の施設のお話ですけど、特に駅の周りの所は非常に人口も多いですので、空き地、緑が少ないのも事実です。市といたしましても人が集まるような施設がもしもの時があるので、せめて1ヘクタールの緑地を確保する必要があるのではというのも大きな理由です。水等については、もともとクラボウさんの工場ということもあり、地下水等もまだ掘ってはいないんですけど、豊富だと伺っておりますので、活用できたらと思っています。水については利水組合の水ですので、勝手に使うわけにはいかないですが、防災の面をしっかりと検討していきたいと思っています。

全体のことについてなんですけど、倉敷の特に駅の北と南のことを考えるにあたって、やはりこの線路で分断されているのがまちの構造として、駅の北と南の流通の面で非常に大きな課題であることは倉敷市だけではなくて、国もそう思っておられます。そういうこともありまして、平成10年に高架をしていくことが決まったわけですが、その後の進み方は特にここ数年、岡山県の財政状況が一番の課題になっております。工事をすると国が全体の約半分、JRさんが7%、残りを岡山県と倉敷市が負担することになるわけですが、倉敷市は何とか分割払いしてでも必ずやりますと言っており、また国もJRも引続き高架については、倉敷市のまちの発展のためには必ず必要だと言われておりますが、現状岡山県がお金がないとなっております、特にここ数年の構造改革プランをされておられます。市が岡山県の分を肩代わりするわけにもいかず、小康状態のような状況になっているのが現状です。ただ、先日の県の最近の状況を見ると、少しずつ状況が良くなってきているということです。岡山市さんが政令市になったから、岡山県内で一番人口の多い市は、今の市の行政区分としては倉敷市ですので、私は石井知事にはもっと倉敷市の方に目を向けていただきたいと思っています。この事業については必ずお願いしてやっていただきたいと思っています。

駅前通りの名前前は、確かに以前も商店街の名前で「モネの通り」、「エルグレコの通り」にしたかどうかとお話をいただいたことがありまして、今度駅の南の方の活性化の面で相談をする時に大原さんに意見を聞いてみようと思っている状況です。

《参加者Fさん》

今、中洲学区に居んですけど、中洲学区、西中学区、高齢化率が非常に高いと思います。私の地域は220、230世帯あるのですが、70歳以上の方が170人を超えております。その中で高齢者の方のための防災、事故や地震があった場合に、高齢者たちに一番に声掛けをしたいと思って地域の中で組織を作りたいと思ったことがあるんですが、やはり個人情報がとても引っ掛かりまして、作ることができませんでした。高齢者の方が非常に地域に多いので70歳以上の人を対象としたサロンを開催しております。隔月なんですけど、9年目に入ります。その中で隣の人や地域の方、高齢者の方とても顔見知りになりまして、非常にいい関係が私たちの地域で結ばれていると思っているんですけど、その中でも本当に出てきていただきたい独り暮らしの方はなかなか出てきていただけません。でも何かあった時には、そういう人にも手助けできるようにしていけないと思っています。私たちはサロンを開催する度に、そういう人たちの所に案内を出しますので顔見知りにはなっているんですが、なかなかいざという時に誰が行くかなれば、みんな自分が責任を持たされていなかったら、組織は動かないと思いますので、個人情報をどこまで遵守しながら組織が作れるか、私たちの力では今の現状ではできないので、市や福祉

の関係の方でできないか。社協さんでもいいんですけど、そういうことを地域に下ろして作っていければ、もっと地域の中での絆が深まっていくと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

《市長》

大変大切なことを言っていたと思います。特に個人情報について、数年前だったんですけど、国の方から「個人情報保護法」の施行に伴って、市の中での情報についても課によって情報を持っておりますが、用途がありまして、こっちの用途には使っていないけれどもこっちの用途には駄目ですとなっております。地域で民生委員さん、児童委員さんにご活動いただく時にやはり一番の課題として個人情報があり、独り暮らしの方の名簿を作りたいけど作っていないのか、なかなか作れないとか、情報を市からももらえないとお話をされることが結構あります。これは非常に私も問題だと思っております。一方では個人情報ももちろん保護しないといけないんですけど。社協とよく相談して営利目的で使われるわけではないので、防災とか自主防災組織とか地域の独り暮らしの方を助ける活動をされる時に、市の方からも一緒にお手伝いができるようにできないかと私も思います。ただ今の所、それがなかなかしにくいのも現状でして、大きな課題だと思っております。何とか社協と地域の防災組織のみなさんと相談して、もっと改善できないかという方向で検討していきたいと思います。

《参加者Gさん》

私は中洲学区の民生委員の推薦準備会委員長をこの度承りまして、その件について民生委員にお願いしても断られるケースがたくさんありました。前任者からの資料は全然なく、75歳以上の独り者の所だけはとなれば、170件から300件を一人で受け持つ形になりまして、コツコツ回って確かめないといけないので、一人で仕事するのは大変だと思えます。未だに民生委員の人にいくらお願いしても出てこられない地区もあります。「遅くなくてもいいから出してください」と委員長の立場上申し上げています。市長さんがおっしゃった通り、個人情報も大切でしょうが、民生委員になられた方の仕事も大切なので、できるだけ福祉課の職員さんの方で75歳以上の方を教えていただければ、民生委員の方も仕事のやりがいがあるのではないかと思います。

私の知っている範囲内ですが、市の方から委託料と報酬料が出ていると思います。例えば公園の清掃の委託料です。国政でもやっているように、事業仕分けをされる気はありませんでしょうか。必要以外に経費が払われているようにも思われます。私も農家の方の用水管理組合をやっておりますが、収支決算は毎年やっております。いつでも提出できますと耕地水路課には申し上げております。公園とか用水とかに委託料として、大変なお金が出ていると思います。そういう所を事業仕分けをしたらだいぶお金が浮くかと思えますので、一般市民として一年間の収支決算報告を監査事務局へ行けば見せていただけないかと、一年間の収支決算報告はどこもやっておられると思いますので、提出していただくのは簡単だと思います。していない所は市からの指導で出していただくということで、委託料とか報酬とかありますが、土木委員の関係では用水とか一般道路の見回りとかの報酬はいたしかたないとしても、委託料は範囲は広いですから、仕分けが必要かと思えます。どのように使っているか疑問がありますので、監査事務局の方でお願いすれば見せていただける

ようにお願いします。

《市長》

やはり個人情報の面のご意見をいただきまして、前任の民生委員さんから代わられた時は引継ぎでも住所は引き継がれないようになっているんですか。確かにまた一からやったら大変ですので、もっと改善した方がいいですね。よく現場の担当の方から一般の個人情報が出せないで困っていると聞いているんですが、それを使って活動をお願いしているので全くゼロからやってくださいというのも良くないとも思いますので、もっと何が問題になっているのか聞いてみたいと思います。改善できる点は改善していきたいと思います。

委託料、報酬料の点については、一例だとは思いますが、公園などは地域の方をお願いをしている場合も多いかと思いますが、内容についてもちゃんと公正になっていなければいけないと思いますので、ご指摘いただきましたので、仕分けになるかは分かりませんがよく確認させていただきたいと思います。

《参加者Hさん》

簡潔に2点お考えをいただきたいと思います。一点目はまちづくりも関連しますが、「脱CO2社会」、「脱車社会」という観点でフランス、オランダでは自転車通勤がまちの常識になっています。日本国内でも富山市を始め、各市町村でそういった取り組みがなされております。具体的にはいろんな所に自転車のターミナルを設置して公共の自転車をみんなが共有して使うと。管理は管理委託業務で民間に投げる場合もあるし、市が全て自転車も施設も管理する取り組みをしている場合もあると思います。観光と関連しまして、車の渋滞を緩和した上で北と南と総社市のような自転車の遊歩道の形で自転車を使って観光する取り組みをしていただければと思います。自転車が加害者になる交通事故件数が多々ありますが、自転車道というまですインフラ整備がない所で自転車を走らせるのは無理があると専門家が言われております。自転車に安全に乗って生活でき、また観光にも使える自転車道のインフラ整備並びに自転車の市民への生活の足、観光のツールとして活用するプロジェクトを北の開発に合わせて南北連携も勘案してやっていただきたい。お考えがありましたらよろしくお願いします。

もう一つはゴミに関してです。かつて水銀で汚染された水俣市がありました。あそこは綺麗な海を戻そうと23種類の分別を市民挙げて行っております。その結果今は元通りの大変素晴らしい海が戻ってきたということです。市が住民を挙げて23種類の分別をみんなで行っている実態があります。倉敷市においてもゴミの減量ということがありましたが、もっと先に進んでゴミゼロ社会という話よりもっと進んで、ゴミを減らすだけでなく5Rという観点から実践いただきたいと思います。この点に関してお考えがありましたらお願いします。

《市長》

自転車の面ですが、今の所倉敷市では自転車の施策は進んでいないのも現状だと思います。一つ思っているのは、例えば駅の南北を結ぶ高架事業をする時、全部が全部車ばかりではなくて少しずつでも自転車の部分を入れられたらと思っています。今の倉敷市の一般的な道の状況としては、内側に自転車の通行帯が少なくとも1メートルくらいは要りま

すが、それを作る幅にはなっていないのが現状です。すぐ簡単にできるかは難しいとは思いますが「脱CO2社会」の面については市としてもしっかり取り組みをしていきたいと思っております。

それからゴミですが、今5種14分別ですけども、なかなか一挙に23分類ともいえないのも現状です。もちろん市民のみなさまと一緒にやって取り組みをしないといけないので、ただ方向としてはなるべく分け方を増やしていければ、それによってゴミが減ればいいと思っています。

《参加者Iさん》

高梁川の堤防のことで、こないだから大雨が降って100年の雨だのなんだのと、川が溢れてと言っているんですけど、あれを本当に聞いたらいけないです。川底が上がって溢れて出たんです。高梁川を見ると、土を盛ってその上に木がたくさん生えているんです。大雨が来た時にはあれが絶対に害になりますから。さらに下の方に行きますとグラウンドゴルフなどをするために土を入れていて、しかもだんだん増えて来ています。市じゃなくて、この近くの人が使うんでしょうけど、最後に犠牲が出るのはこの地区なんです。100何年前に切れた話を聞いていますけど、伊東さんの時には出ないと思います。その次の次の運の悪い市長の時に出ると思っています。高梁川の改修の時にはあまり土を入れずに川を流れやすくするように、ぜひ歴代の市長に引き継ぐようにお願いします。

《市長》

高梁川の底の部分は、真備の方の小田川も一緒なんです。今回土木の改修をする時に小田川も高梁川の方も自然に中へ生えている木をなるべく取ってもらうように国の方へお願いしております。すぐ取って下さるわけではないと思うんですけど、川下の方からだんだん取る順番にはなると言われていました。ですので、堤防をどんどん上げるだけでなく中の川の底の部分の不要なものを取るのもしっかり言っておりますけども、これからもちゃんと言うようにいたします。

《参加者Jさん》

ここにイトーヨーカ堂とアウトレットモールができると、それでなくてもイオンができていて関係で北の道路が非常に混んでいる。それにイトーヨーカ堂ができるともっと混むのではないかと非常に危惧しております。どこで混むかと言うと、殆どが信号の四つ角なんです。左車線、右車線がきちんとあれば左側の手前だけ用地買収して車線を作ればかなり緩和されると思って、前も直接的なものではなくて全体としてしたらどうかという提案メールを市長さん宛に出しております。また見ておいて下さい、それが一つ。

もう一つは、僕は散歩でよく「西岡荘」へ行くんです。そこの年寄り連中とよく話をするんですけど、健康でころっと逝きたいという人が殆どです。子どもの世話にはなりたくない。みなさんもそうじゃないかと思うんです。あそこには電気マッサージの椅子とかが置いてあって、そこに来られる人はみんな足が痛いのが治ったとか腰が痛くなくなったとかよく聞きます。電気で当然血流が良くなるから健康になる仕掛けなんです。最近少子化で学校の教室が余っているんじゃないか、そういう所へ「幼稚園」じゃなくて「老稚園」をつくる。試行的にどこか一部分だけやってみて徐々にしていく発想が大事ではない

かと思っています。

《市長》

車の点についてはよく警察とも協議しまして事業者の方にしっかり言うようにします。今より混まないというのはなかなか難しいとは思いますが、車線の話とか言っていた部分は改良できる部分はこれからもしっかりしていこうと思います。

私も思うんですけど、市として年配のみなさんたちの力を活用させていただきたい、そして地域の活力をアップして元気で長生きしていただきたい。今もちろん「子育てするなら倉敷で」ですけど、近隣からでも倉敷市は美術館も医療も充実していますから、「年取ったら倉敷で」となればいいと思っています。年配の方の力を活用する方策についてお話いただいて、よりもっと取り組みをしたいと感じました。

《参加者Kさん》

住んでいる地域は倉敷市営球場の西側の臨海鉄道のすぐ下の町内なんですけど、市のゴミの減少のパンフレットをいただきまして、春先から3ヶ月かけて町内の各家庭を10軒くらいずつ集めて会議をして、市の方針通り生ゴミの減量に取り組みました。分別回収は当然やっているんですが、生ゴミのコンポストの手前で水気を少なくするのと、紙がたくさん入っているのを減らそうとみんな目覚めてくれて取り組んでくれました。95%くらいの出席率でした。

旧2号線の中島口から酒津の方へ向いている最近ディオというスーパーができた通りにはゴミステーションが設置されていない地域があるんです。生ゴミを出す日には前の晩から歩道の上にどんどん置いていかれるんです。地域の人が置くんならいいんですが、車で通る人もそこへ投げていくんです。すると朝学校へ通う人、歩道を自転車で行く人が引っ掛けるんです。それと前の晩から出すと、猫や犬が捌きます。そうするとゴミを置かれたすぐ近くの家の方がいつも手をかけて、いつも親切にやってくれているんです。市としてもっとゴミステーションの確立をするように、今ゴミステーション無しで路上に置いてある所を回収するのは市の環境の方が分かっていると思いますので、その地域に市が歩道にわずか一坪か一坪半ほどの収集場所を作る方向を出されるともっと市全体が綺麗になり、市民も非常に納得できると思います。ゴミステーションを作ると地域の人も勉強会もすると思うんです。勉強会をしますと本当にみんなよく分かってくれます。今年初めて資料をいただいてやったんですが、非常に効果があったと思っています。

《市長》

ゴミの減量に取り組んでいただきまして本当にありがとうございます。今のはペコちゃんの所の通りですか。

《参加者Kさん》

東側の歩道の電信柱の所へ通りがかりにどんどん置いて行くんです。

《市長》

ちょっと環境部の方にも聞いてみます。

《参加者Lさん》

結構遠慮したことですが、路面電車が岡山にもあるんですが、L R T、Light Rail Transitというヨーロッパで発達しているのがあって、倉敷にも20年か30年後の近い将来には導入されるような都市計画を進めていただきたいと思います。L R Tは、ご老人の交通の役に立ちますし、倉敷、児島、玉島、船穂、真備、茶屋町。分散した市街地を一体化するためにはこういうものを考えたまちづくりを今からした方がいいと思っております。

もう一つは倉敷ファッションタウン、ファッションを地軸としたまちづくりをされるのがいいと思っております。児島にジーンズとかを発展させて倉敷の旧市街地の南にそういうものを再現させるまちづくり。具体的には今あるまちに各店舗を誘致するとか、まちを育成することを考えるのがいいと思います。

一番シリアスな問題は、今の中学校、高校の交通指導の徹底をしていただきたいのは切実で現実的な問題です。特に登校時、みなさん勤められている方は車で苛々しながら早く遅れないために行っていると。学生も同じなんですが、中学生くらいになると結構とのんびりしてしまっていて、2列3列になって蛇行して行ったり、時々学校の先生が指導されたりしているようですが、非常に危ない。それから倉敷のまち、非常に曲がりくねって細くて分離されていない。登下校の時のマナー、交通指導を十分にやっていただきたいという3点なんですが、前に言った二つは非常に大きなことなんですが、長期的な計画を頭に入れて都市計画をやっていただきたい。路面電車、私は非常にいいと思います。詳細な答えは結構です。

《市長》

先ほどの自転車のお話もそうだったと思いますが、全体としては環境に付加の少ないまちづくりをしたいと思っております。それが自転車なのか路面電車なのか。今一部ですが、三菱自工さんの電気自動車、観光客や市民のみなさんにまず体験していただく貸し出しを行っていたりしています。まず環境の意識をみんなで高めていくのが必要だと思っております。路面電車については費用が莫大になると思いますけど、考え方としては公共交通を何とか再開、復活するという面でおっしゃることはよく分かります。

それからファッションタウンについては今児島のジーンズのことがありますけども、商店街、魅力・個性のある店を作ってもらいたいという観点からそういう店が入っていただけたらいいと思っています。

最後に交通指導ですけど、学校の方にもよく言いたいと思っておりますし、地域で交通安全の指導員さん、共助員さん、母の会のみなさんたちに大変ご協力いただいております、最近の子どもさんはよく声を掛けてくだされば、皆結構素直だと思いますので、身近な所からの声掛けやご注意と一緒にしていただけると大変ありがたいと思っております。地域のまちづくりはみなさんと一緒に行っていくことが大切なことだと思っております、今日お話を伺いまして大変ありがたいと思っております。今日は本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。